

# 原発13基強度不足疑い

## 压力容器 高浜、大飯、敦賀など

九州電力や東京電力、関西電力など電力六社は二日、フランスの原発で強度不足の疑いがある重要設備を製造した大型鋳鋼品メーカー「日本鋳鍛鋼」（北九州市）が、稼働中の九電川内原発1、2号機（鹿児島県）を含む国内八原発十三基の原子炉压力容器を製造していたと原子力規制委員会に報告した。

六社は十月末までに強度問題がないかなどをそれぞれ調査し、規制委に報告する。重大な強度不足が判

明すれば、原発の運転や再稼働時期に影響する可能性もあるが、規制委事務局の原子力規制庁の担当者は「フランスでも実際に強度不足が確認されたわけではなく、あくまで念のための調査だ」と述べた。

原子炉压力容器 強度不足の可能性が発見した原発		
東京電力	福島第2 2、4号機	福島
北陸電力	志賀1号機	石川
関西電力	☆高浜2号機 大飯1、2号機	福井
日本原子力発電	※敦賀2号機	福井
四国電力	伊方2号機	愛媛
九州電力	玄海2号機 ※3、4号機 ★川内1、2号機	佐賀 鹿児島

★…稼働中 (2日現在)  
☆…原子力規制委員会の審査に合格  
※…規制委の審査中

九電は、川内1、2号機への対応を「運転を止めず、メーカーに確認する」とした上で、強度不足が判明した場合の対応については「仮の話なので答えられない」とした。

日本鋳鍛鋼は取材に「規制委から要請があればいつでも調査を受ける」と回答。「強度不足につながる鋼材の不純物は顧客の指示

通り切り捨てている」として強度基準を満たしているとの認識を示した。

電力各社によると、日本鋳鍛鋼はほかに、東電福島第二原発2、4号機（福島県）、北陸電力志賀1号機（石川県）、関電高浜2号

機（高浜町）、大飯1、2号機（おおい町）、日本原子力発電敦賀2号機（敦賀市）、四国電力伊方2号機（愛媛県）、九電玄海2、3、4号機（佐賀県）のいずれも原子炉压力容器を製造していた。

**W** 仏の原発強度不足疑惑 フランスの規制当局が6月、同国内で運転中の原発18基の原子炉压力容器など重要設備に強度不足の疑いがあり、調査を進めていることを明らかにした。設備を製造したのはフランスの「クルソ・フォルジュー」と、日本の「日本鋳鍛鋼」。不純物の濃度が高い金属塊が材料に混ざっていたのが原因とみられる。日本の原子力規制委員会は8月、原発を所有する国内の電力各社に、压力容器や蒸気発生器などの重要設備を2社が製造していないか調べるよう指示していた。